



2023年3月期 第2四半期 決算説明資料

株式会社要興業（東証スタンダード：6566）

2022年11月30日

- ◆ 2023年3月期2Q 連結業績
- ◆ 2023年3月期 連結業績予想
- ◆ 2023年3月期 配当予想
- ◆ 2023年3月期2Q トピックス

2023年3月期 第2四半期は、 売上・利益とも増収増益

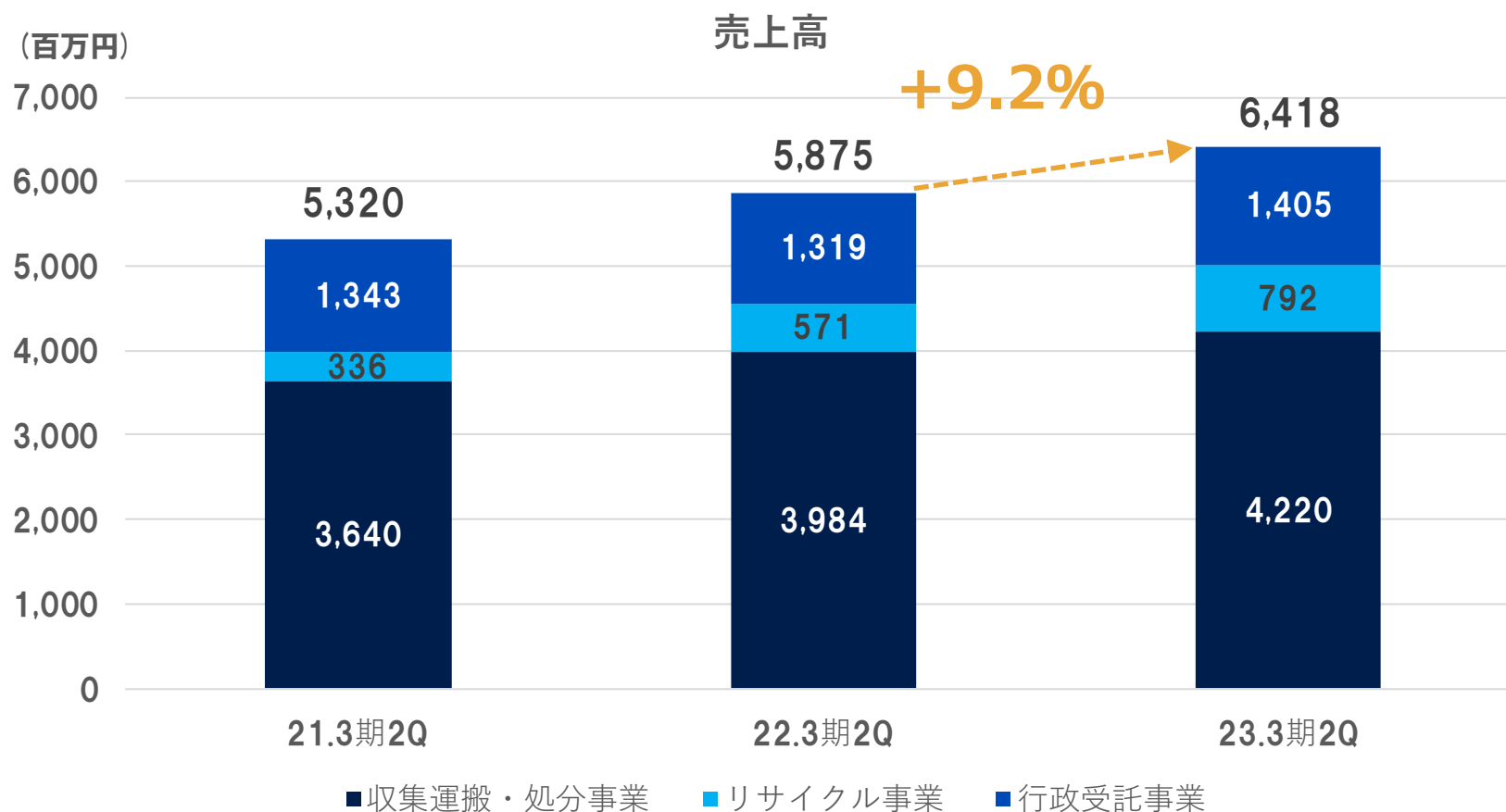
- 3つの事業区分共に売上増
- 大幅に利益が増加

2023年3月期2Q 連結業績



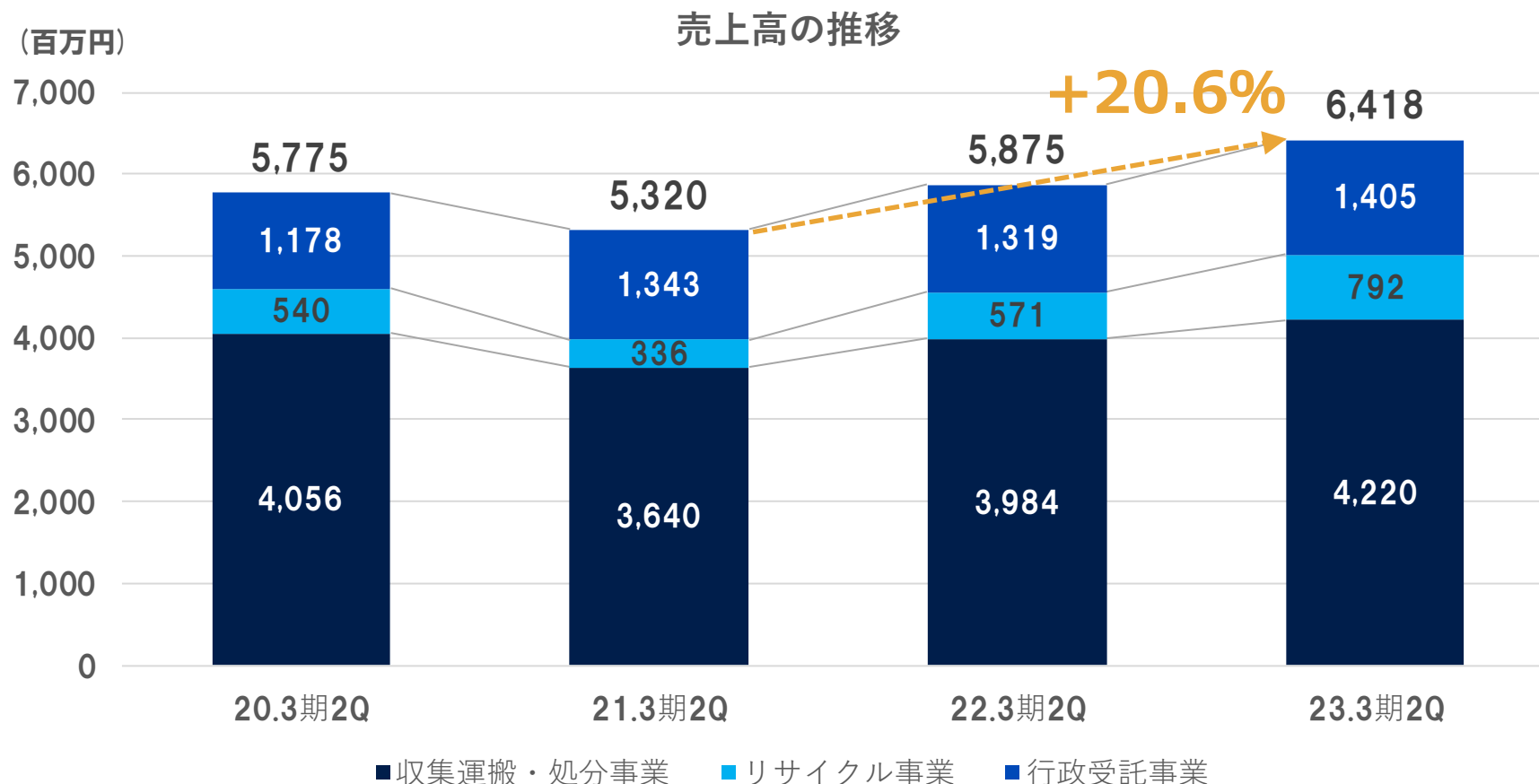
売上高①

- 当社グループの主要業務である廃棄物処理業につきましては、より厳格なコンプライアンスや適正処理の推進、顧客ニーズに合致する営業活動の継続、資源価格の上昇等により、前年同期に比べて9.2%の増収、64億1800万円の売上となりました。



売上高②

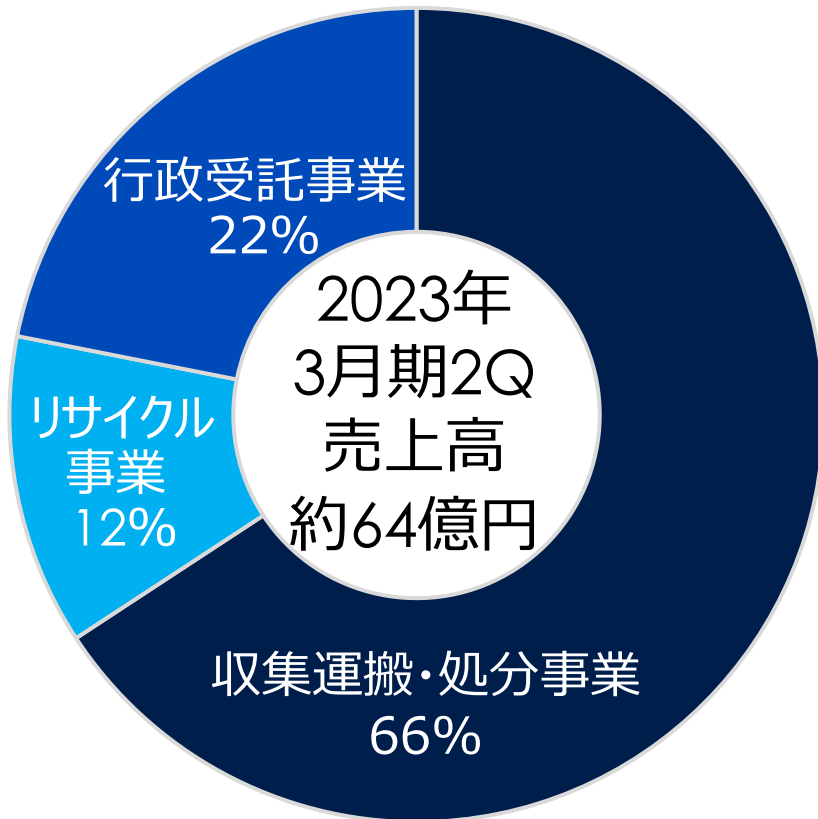
- 4年間の売上高の推移をみますと、新型コロナウイルス感染症の流行が始まった2021年3月期の中間決算時は減収となったものの、その後は堅調に推移しております。
- 2023年3月期第2四半期の売上高64億1800万は、2021年3月期中間決算時に比べると20.6%の増収となっております。



事業区分別の売上高構成

- 当社グループは総合廃棄物処理業の単一セグメントであるものの、事業区分は下記の3つとなります。収集運搬・処分事業の売上が全体の66%、リサイクル事業の売上が12%、行政受託事業の売上が22%を占めます。

事業区分別の売上高構成



【事業区分別の売上高】

収集運搬・処分事業	42億2000万円
リサイクル事業	7億9200万円
行政受託事業	14億 500万円

【車両数（2022年3月末時点）】

連結	450台
単体	310台

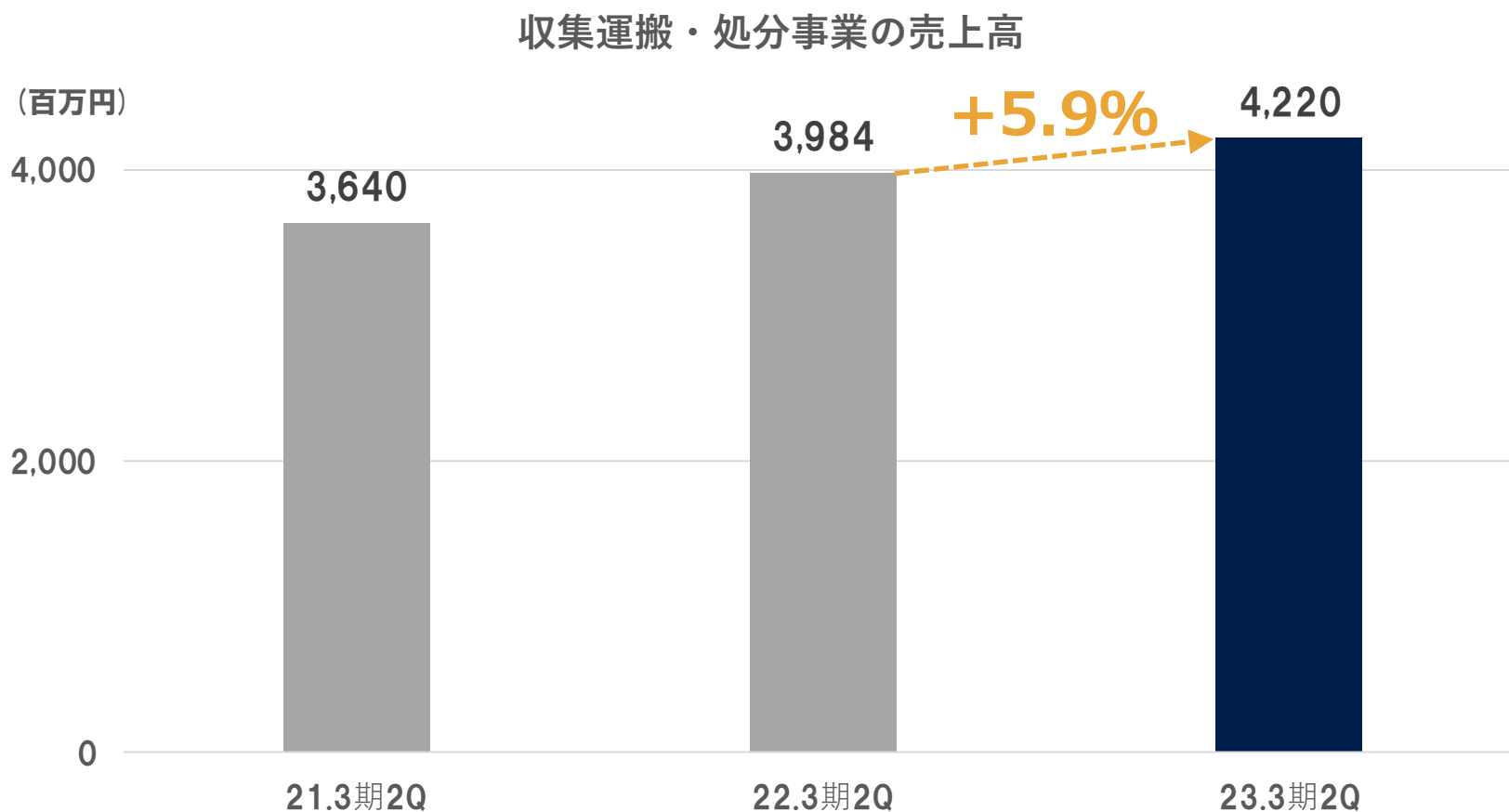
【従業員数（2022年3月末時点）】

連結	807名
単体	645名

※アルバイト・パートタイマー等含む

収集運搬・処分事業の概況（売上高）

- 収集運搬・処分事業の売上は42億2000万円と前年同期比5.9%の増収となりました。
- 顧客ニーズに合致する営業活動の継続により顧客数、定期回収現場数も順調に拡大しております。



収集運搬・処分事業の概況（リサイクルセンター等）

● 収集運搬処分事業で使用するリサイクルセンター・清掃工場・車両基地は以下です。

● 車両基地

東京二十三区清掃一部事務組合
が運営する清掃工場

第1・第2入谷事業所
第1・第2入谷リサイクルセンター



- ◆ 古紙の選別圧縮
- ◆ 機密書類の裁断
- ◆ 発泡スチロールの溶融
- ◆ 木製家具の選別

板橋区

足立区

豊島区

大田区

新鹿浜事業所
新鹿浜リサイクルセンター



- ◆ 廃プラスチック類の破碎
- ◆ 家庭の不燃ごみ選別

城南島事業所
城南島リサイクルセンター



- ◆ 廃プラスチック類の破碎
- ◆ ペットボトルの圧縮
- ◆ 容器包装プラスチックの圧縮

鹿浜事業所
鹿浜リサイクルセンター



- ◆ 粗大ごみの破碎
- ◆ 蛍光灯の破碎
- ◆ 小型家電の分解

大森事業所
大森リサイクルセンター



- ◆ ビン・缶・ペットボトルの選別・圧縮・破碎
- ◆ 廃プラスチックの圧縮

出資先

食品廃棄物

バイオエナジー(株)

(株)アルフォ



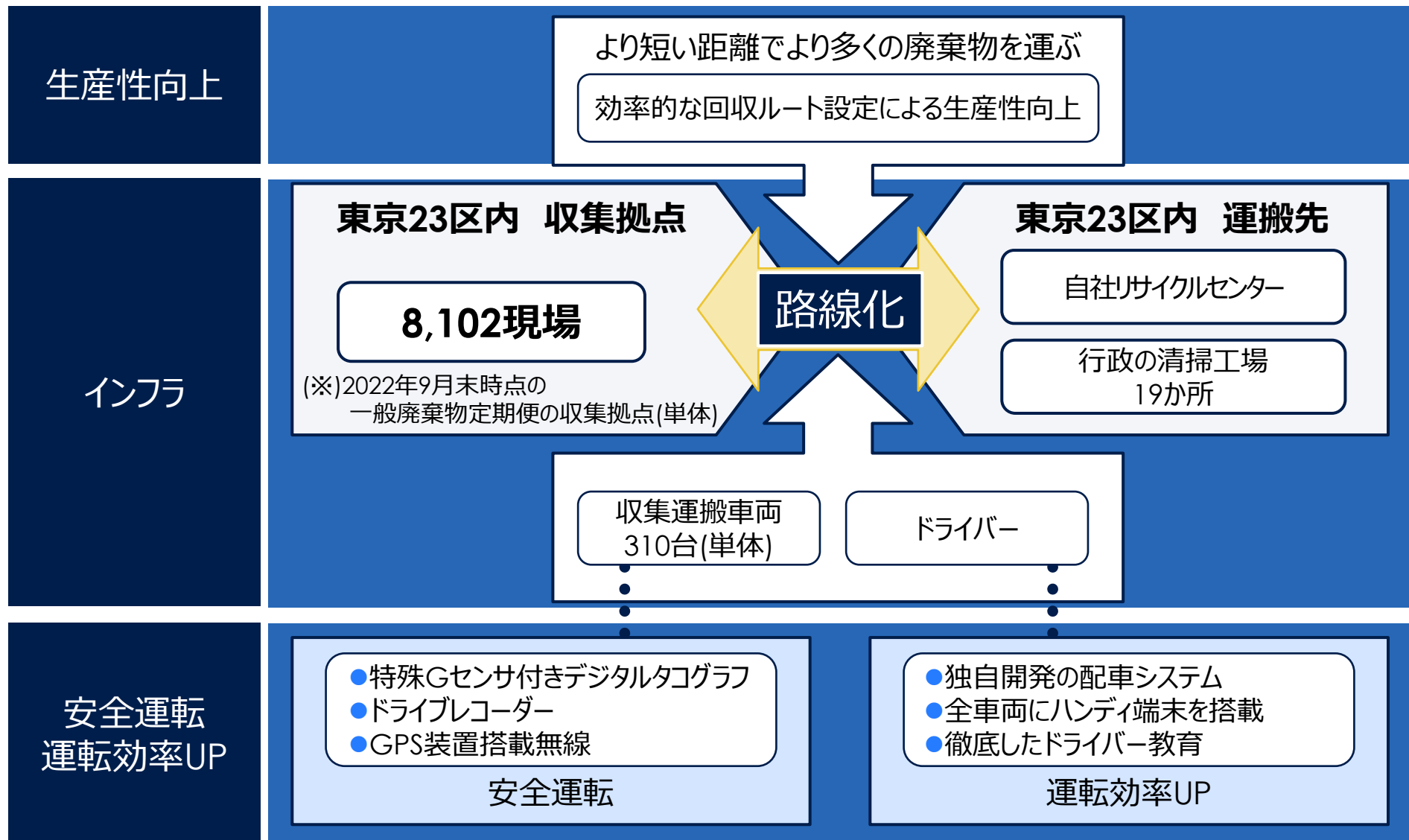
千住事業所
千住リサイクルセンター



- ◆ ビン・缶・ペットボトルの選別・圧縮・破碎
- ◆ 廃プラスチック類の圧縮
- ◆ 一般不燃廃棄物の圧縮

収集運搬・処分事業の概況（定期回収）

- 路線化は順調に進展しています。定期回収現場は8,102現場に増加しました。

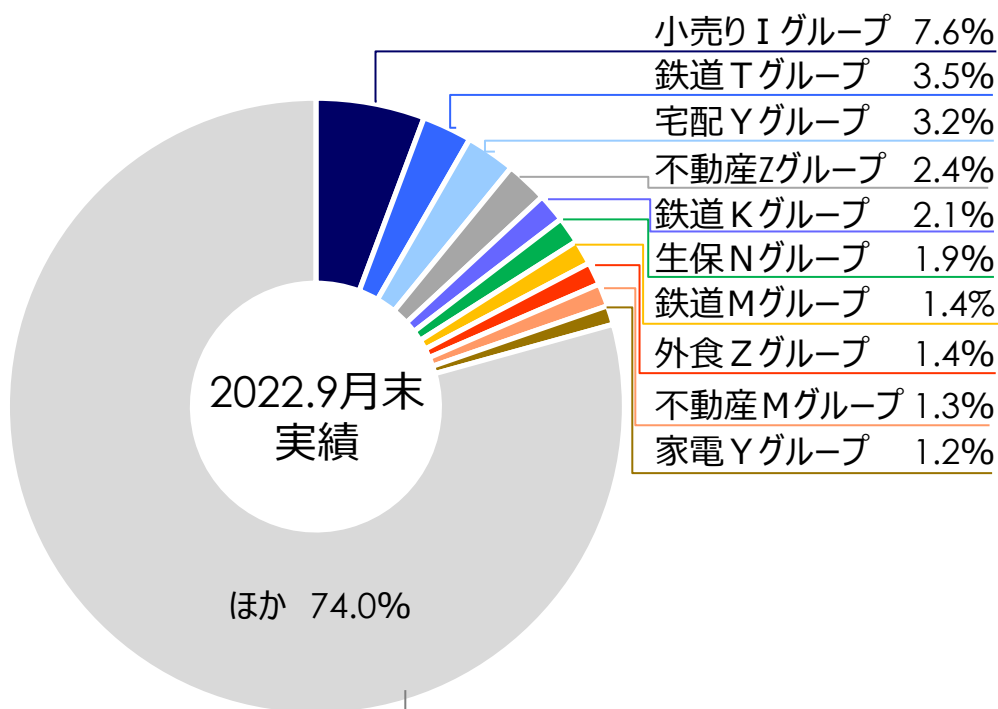


収集運搬・処分事業の概況（営業活動の継続）

- コロナ禍においても営業活動は継続しております。顧客数は3,539社となりました。

顧客別売上高構成比（％）

ビルメンテ、ビルオーナー、店舗、メーカー、一般企業、など**3,539社**が顧客（単体）



流通、小売り、鉄道、商社、運輸、飲料、不動産、通信、銀行、証券、マスコミ、電機メーカー、自動車メーカー、病院、大学などあらゆる業種、事業者

業界随一のコンプライアンス体制

- ◆ 自社開発ソフトによる電子マニフェスト管理
- ◆ 廃棄物処理法に関する勉強会
- ◆ 安全運転に関する指導
- ◆ 労務管理に関する勉強会

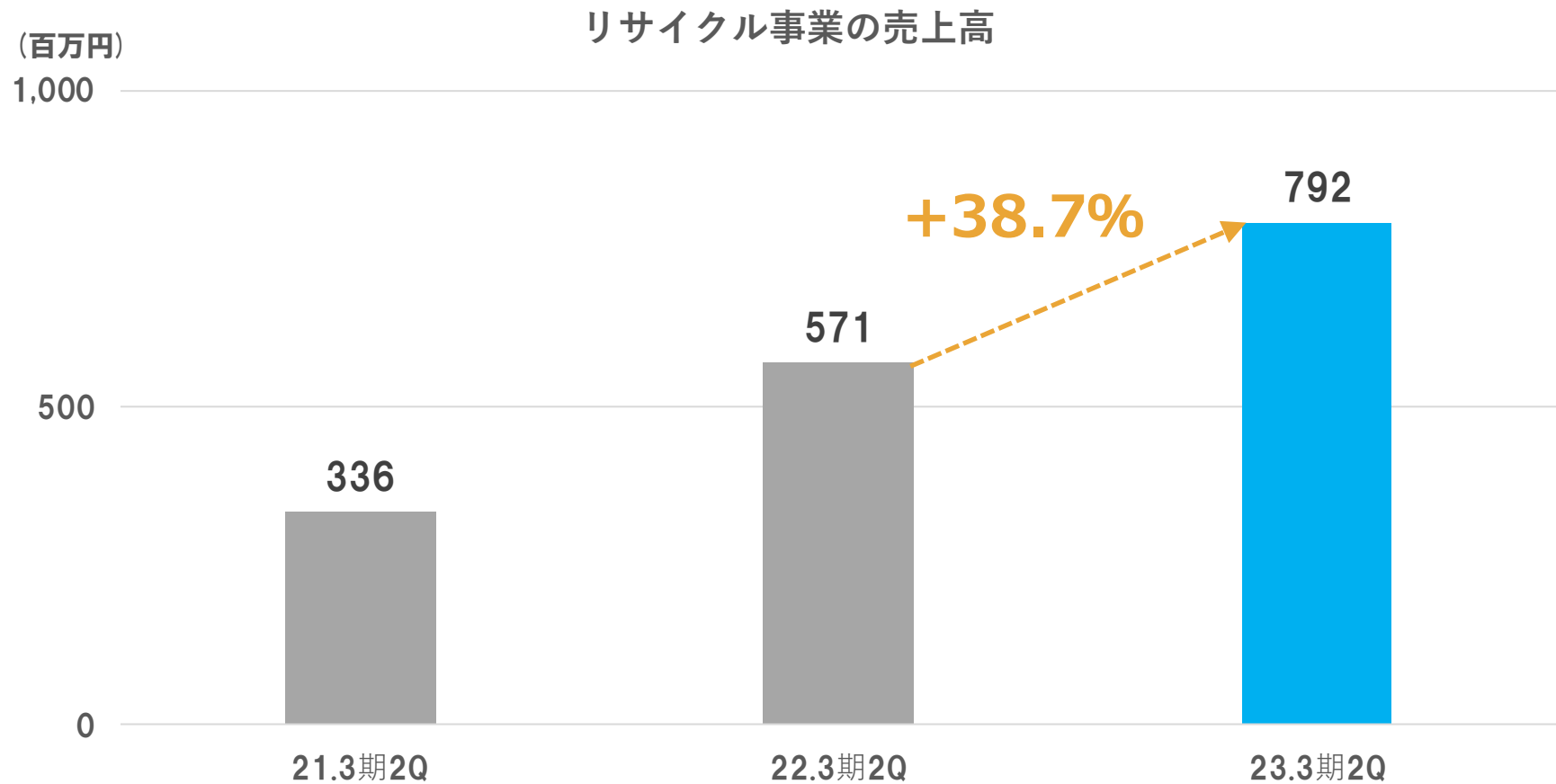
継続的な施策の実施
社会的信頼を得る努力

コンサルティング営業の推進

- ◆ 効率的な運用体制の指南
- ◆ 計量フローの確立
- ◆ 啓蒙活動(セミナーの開催、小冊子発行など)
- ◆ 臭気、衛生対策 など

リサイクル事業の概況（売上高）

- リサイクル事業の売上は7億9200万円と前年同期比38.7%の大幅増収となりました。
- 資源相場の上昇により、大幅な増収となりました。



リサイクル事業の概況（売却する資源）

- リサイクル事業で販売する資源の例は、以下のようなものとなります。



古紙ベール



発泡スチロールインゴット



段ボールベール



アルミ缶プレス



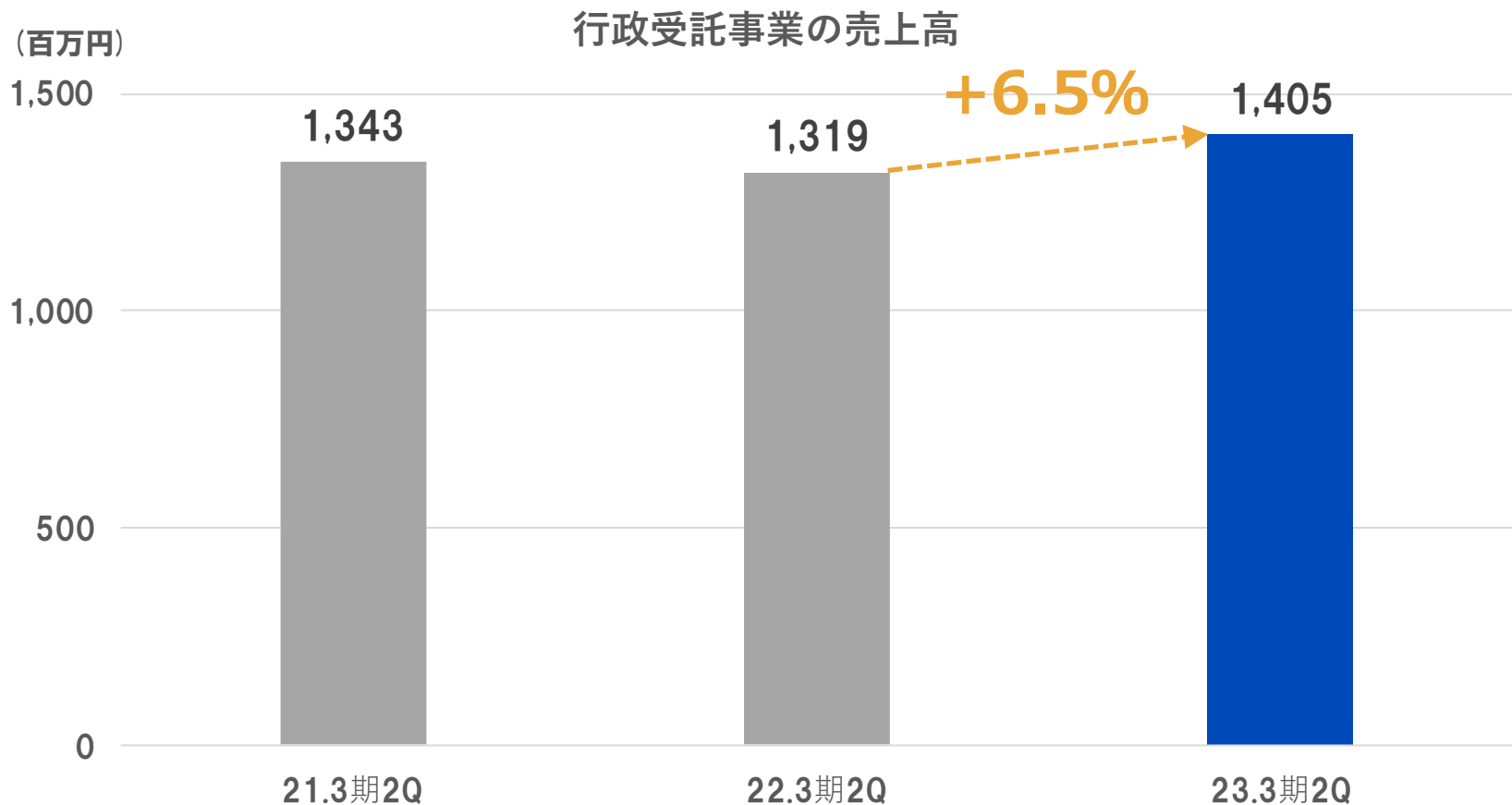
PETベール



スチール缶プレス

行政受託事業の概況（売上高）

- 行政受託事業の売上は14億0500万円と前年同期比6.5%の増収となりました。
- 底堅い家庭ごみ需要を反映させる形で、取扱量が増えて増収となりました。



行政受託事業の概況（家庭ごみの収集運搬）

- 行政受託事業の大きな柱となる家庭ごみの運搬車両は以下となります。



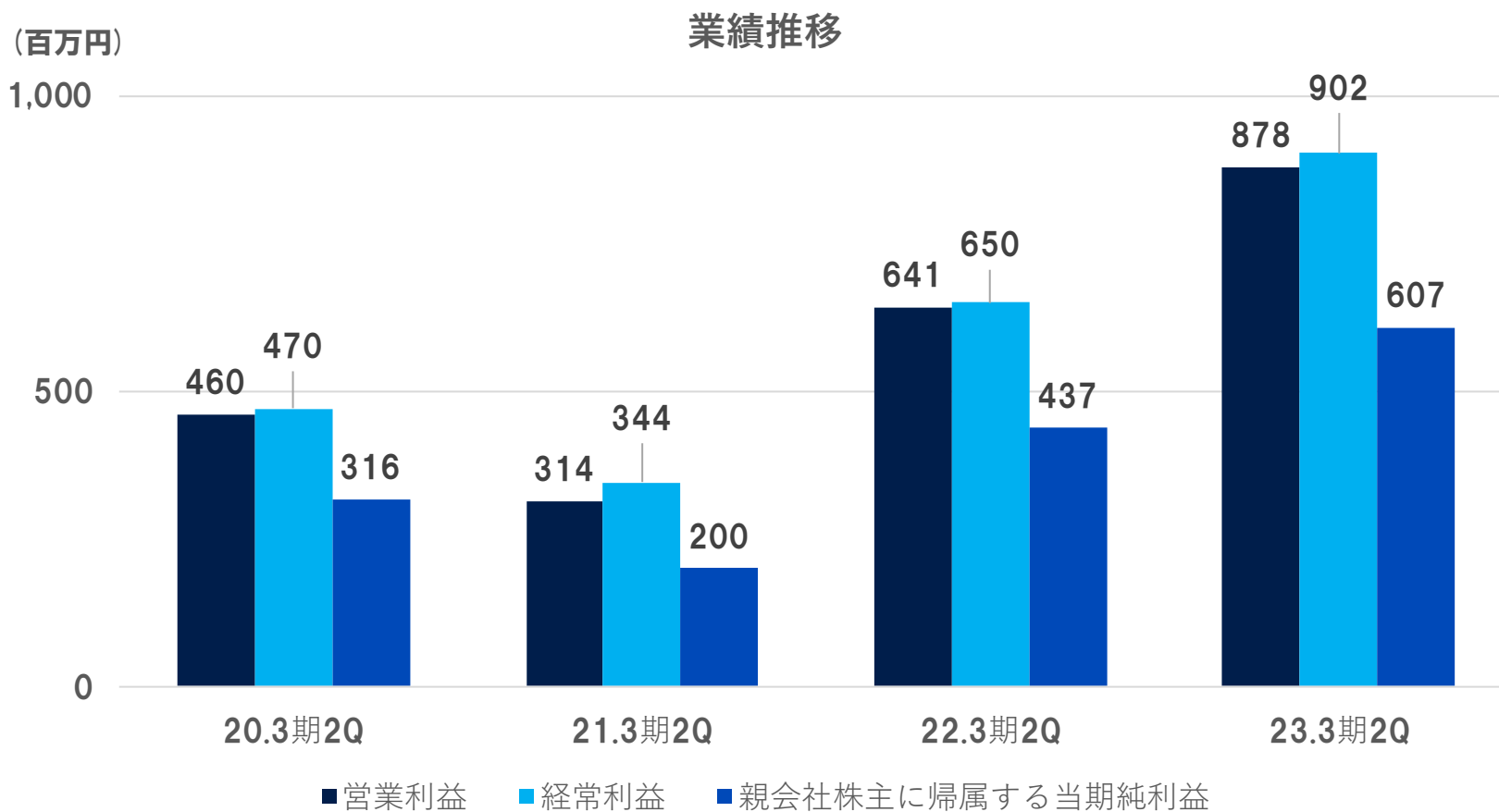
行政受託事業の概況（不燃ごみ資源化事業）

- 東京23区内の各区より請け負う不燃ごみ資源化事業は順調に推移しております。



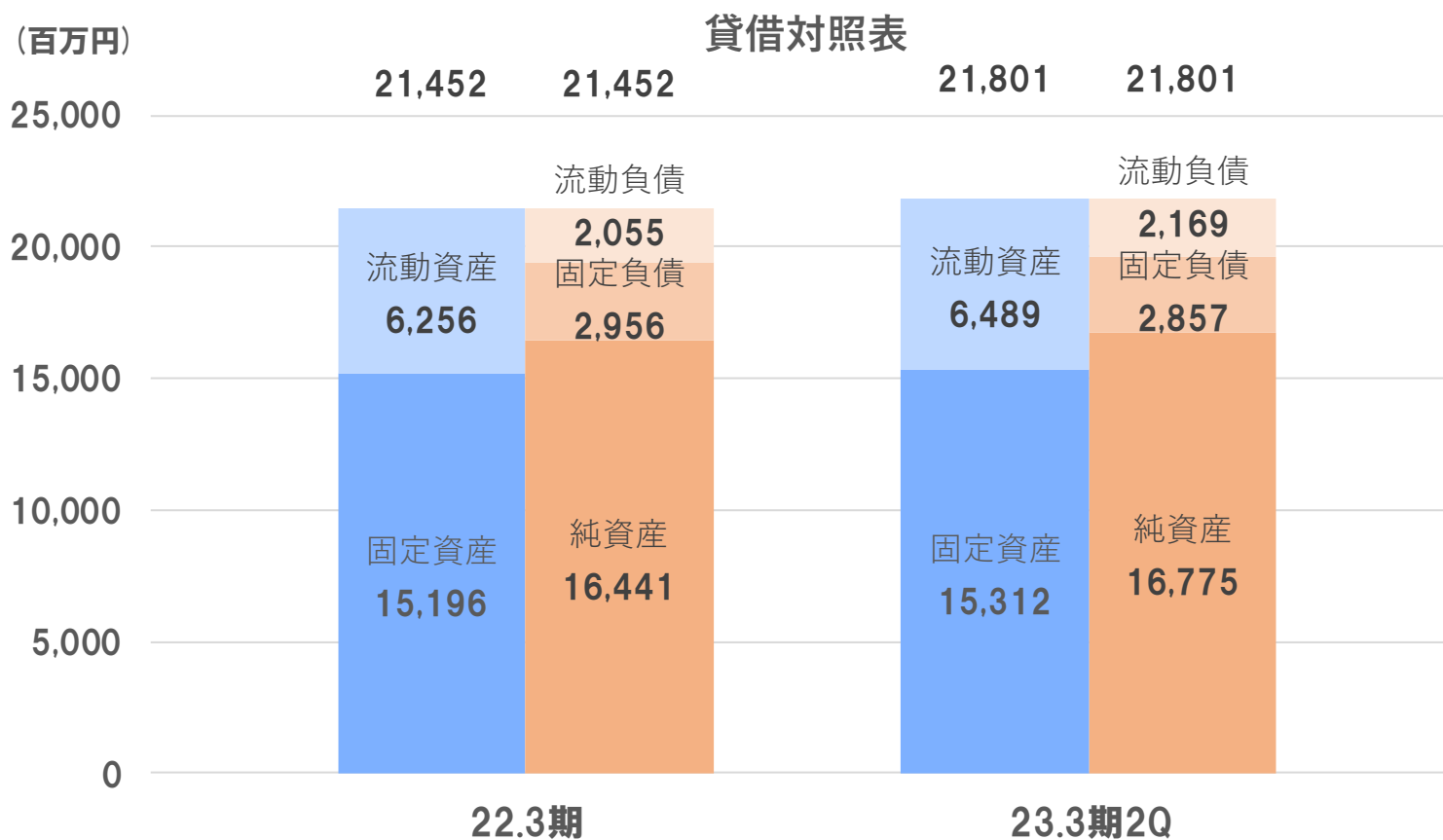
利益額の推移

- 前年同期と比べ、大幅な増益となりました。
- 営業利益は8億7800万円で前年同期比37.0%の増益、経常利益は9億0200万円で38.9%の増益、親会社株主に帰属する当期純利益は6億0700万で38.8%の増益となりました。



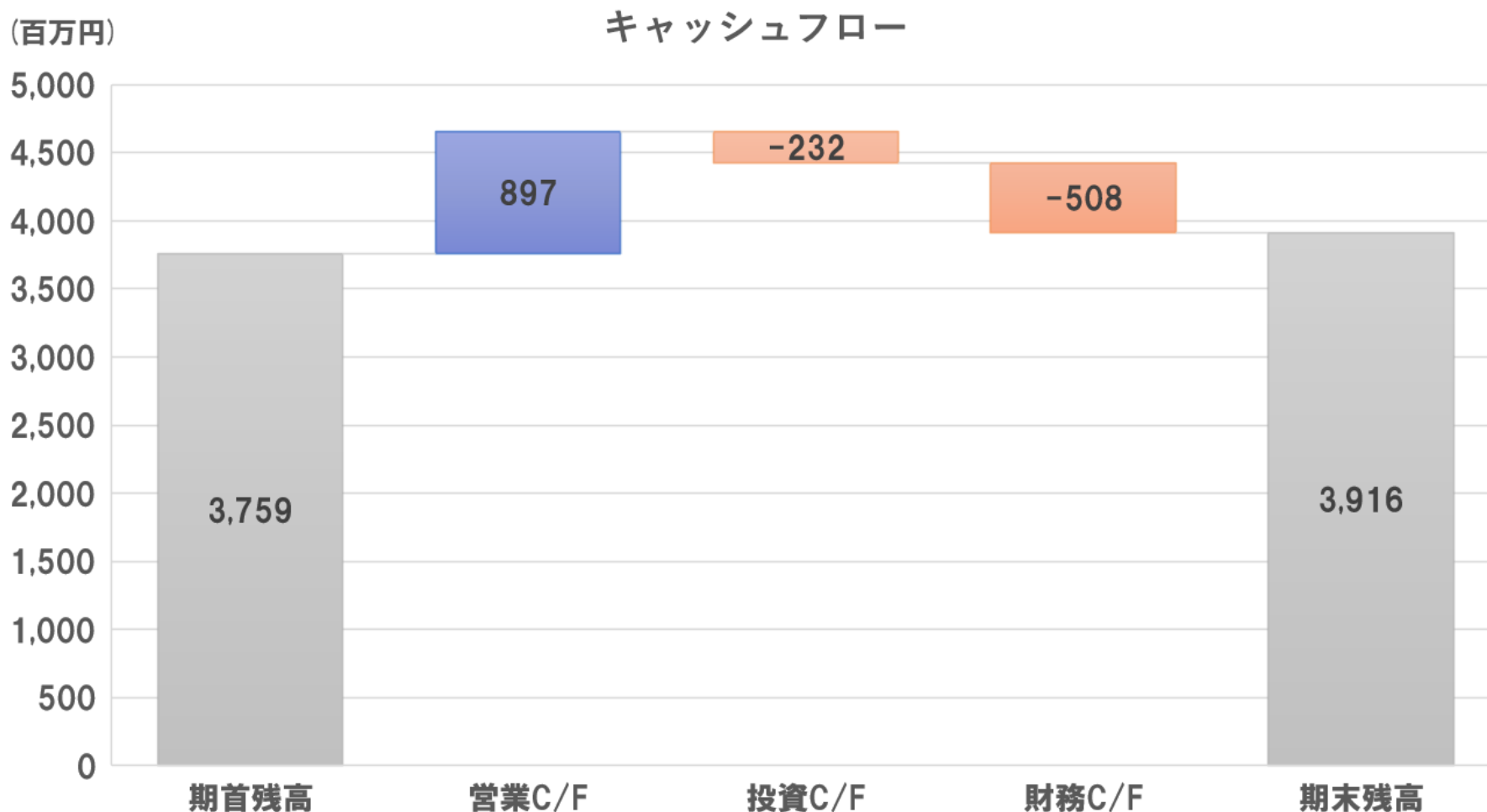
連結貸借対照表

- 流動資産、固定資産ともに増加しました。
- 流動負債は増加し、固定負債は減少、純資産は増加しました。
- 自己資本比率は76.9%となりました。（前年度末は76.6%）



キャッシュフロー

- 現金及び現金同等物の期末残高は、前連結会計年度の期末残高に比べ、1億5700万増加し、39億1600万円となりました。

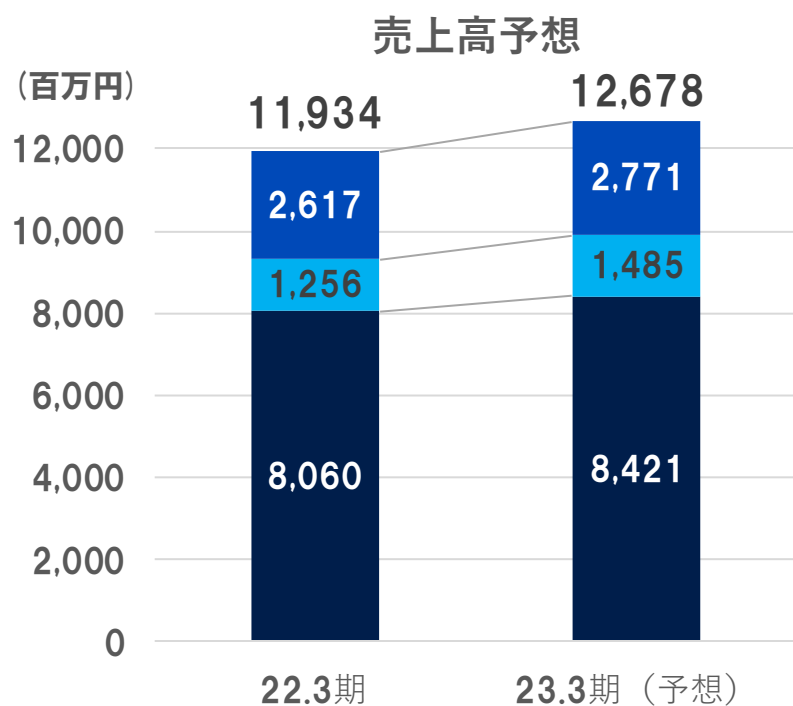


2023年3月期 連結業績予想

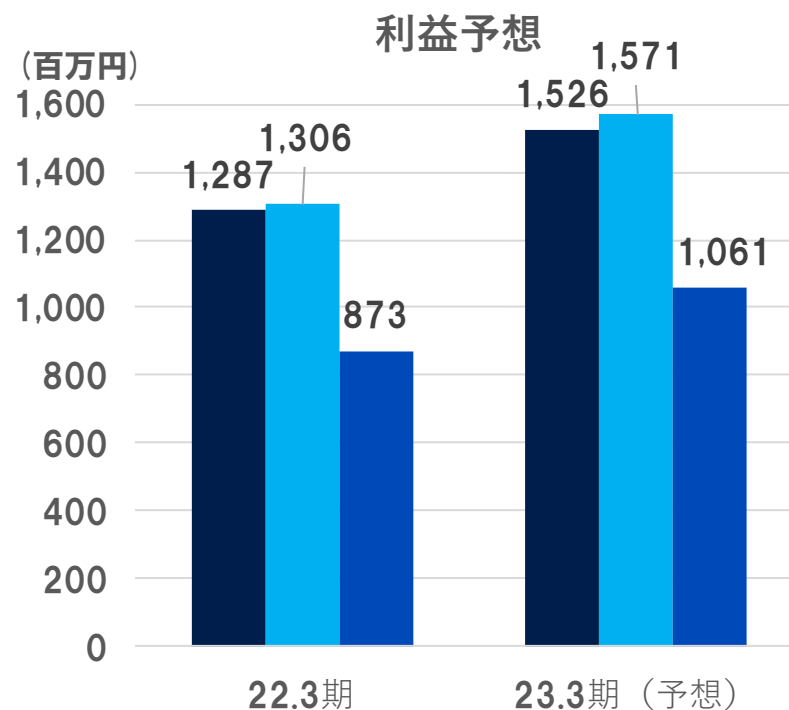


2023年3月期の連結業績予想

- 売上高は126億7800万円と、前期対比6.2%の増加を予想しております。
- 営業利益は前期比18.5%増の15億2600万円、経常利益は同20.3%増の15億7100万円、親会社株主に帰属する当期純利益は21.6%増の10億6100万円を予想しております。



- 収集運搬・処分事業
- リサイクル事業
- 行政受託事業



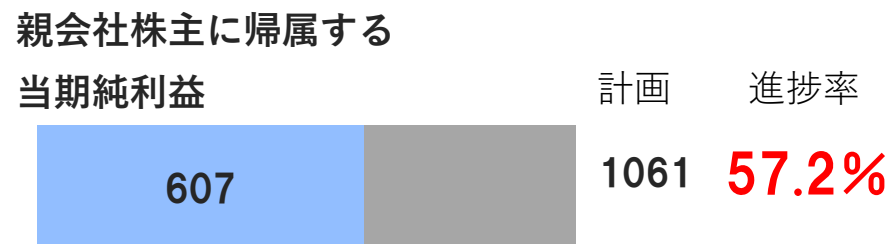
- 営業利益
- 経常利益
- 親会社株主に帰属する当期純利益

2023年3月期第2四半期の実績と進捗率

連結業績予想の進捗率、前年同期比は以下でございます。

●連結業績予想の進捗率

(単位：百万円)

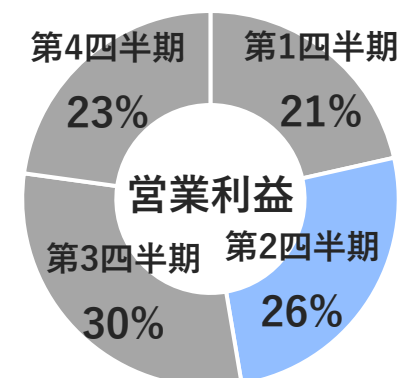
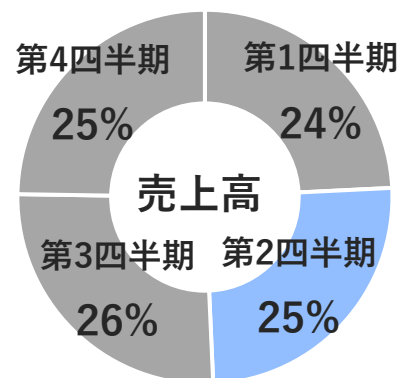


●前年同期比

(単位：百万円)

	前第2四半期	当第2四半期	前年同期比
売上高	5,875	6,418	+9.2%
営業利益	641	878	+37.0%
経常利益	650	902	+38.8%
親会社株主に 帰属する 当期純利益	437	607	+38.9%

●四半期別構成比(過去3年平均)



※パーセンテージは、百万以下切り捨ての数字で計算しています。

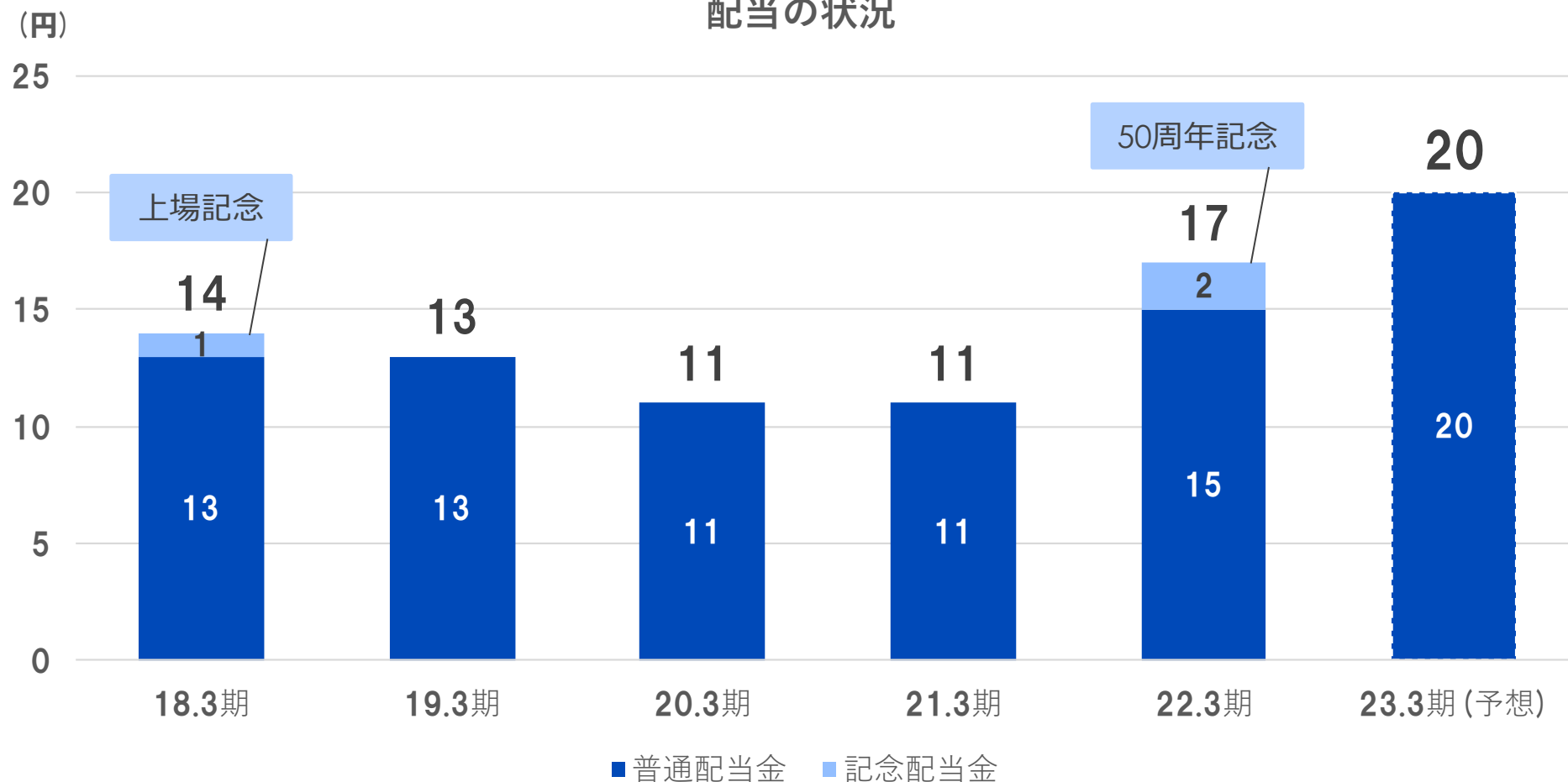
2023年3月期 配当予想



2023年3月期の配当予想

- 当社は配当性向30%水準を目安としております。2023年3月期につきましては、株主の皆様にお応えするため、3円増配となる20円の配当予想とさせていただきます。

配当の状況



2023年3月期 第2四半期トピックス



【リニューアルした鹿浜リサイクルセンターは順調に稼働】

全景



破碎前



破碎後



【環境関連の法的要求事項の啓発活動を継続して実施】

東京の廃棄物処理とリサイクル

循環型社会への変革をめざして

第14版



連続する3つの円は、

- 人 (生活する人、リサイクルする人/オレンジ)
- モノ (回収資源/グリーン)
- コト (技術・システム/ブルー)

をイメージしたものです。

株式会社 要興業

かなめ環境NEWS

2022年秋号のハイライト

- 家電リサイクル制度について
- のぞいてみよう！世界のごみ事情
- 廃棄物Q&A
- 一緒に学ぼう！廃棄物寺子屋
- 教えて！要のかんじん「かなめ」なコトJ&T環境の発却施設
- 情報伝言板



株式会社 要興業

かなめ環境NEWS VOL66

発行日：2022年 秋季

営業部の庄司です。趣味のサッカー活動により、日焼けが著しい今日この頃でございます。当社への入社時は営業部内で最年少の20代だった私も、今年で14年目、40代になりました。

当社は東京23区を中心とした狭いドメインながらも、8,000以上の定期回収現場数、規模も業種も多岐にわたるお客様とのお取引がございます。新しい情報や様々な業界の動向を学ぶことが多く、日々新鮮な気持ちで働くことができるこの仕事にとても魅力を感じております。

新規の営業活動、お客様からの様々なお問い合わせにお応えするコンサルティング営業は今も変わりませんが、ここ数年はコロナ禍で、働き方が劇的に変わったと感じております。お客様と対面する機会が減少した営業活動に寂しさを感じますが、テレワークやリモート会議等、IT化がより進みました。当社では現在、電子 manifests や電子契約の推進を積極的に行っており、導入も急増していると実感しております。IT化だけでなく、情報提供を含む質の高いサービスをご提供できるよう、今後も努めて参ります。引き続き、宜しくお願い致します。



営業部 営業開発3課 課長代理 庄司 伸也

巻頭特集

感染性廃棄物について

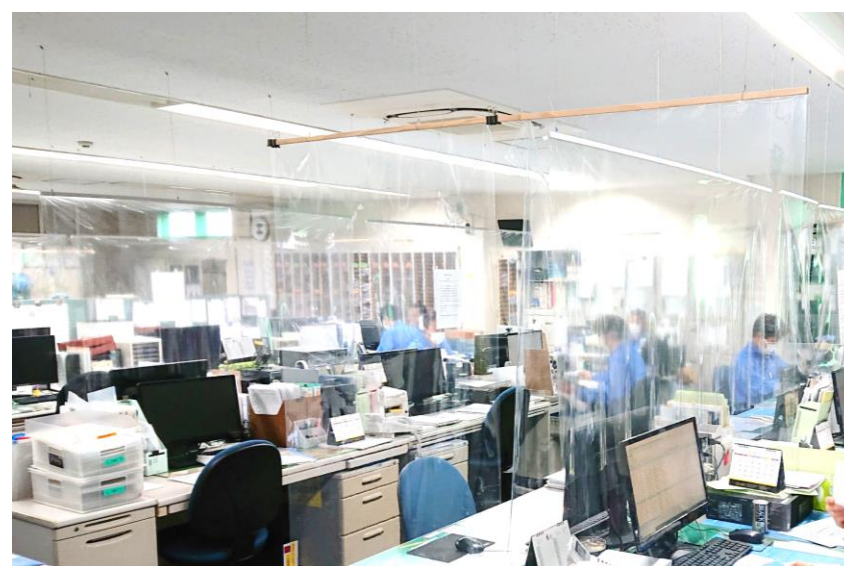
経営企画室 西野 善一朗

★感染性廃棄物処理マニュアルが改正されました。

感染性廃棄物という言葉をご存じでしょうか。病院や診療所、介護施設の皆様からは「何をいさら」という言葉が聞こえてきそうですね。一言でいうと「人が感染する恐れのある病原体が含まれている廃棄物」のことを指します。通常の廃棄物と同じ扱いをすると病原体に感染してしまう恐れがあるため、特別な管理が必要というカテゴリ、いわゆる特別管理廃棄物に指定されています。一般的なオフィスビルから日常的に排出されるものではありませんが、一昨年あたりからはそういった方から新型コロナウイルス感染症の関連で「こういう廃棄物は感染性というものに入るんじゃないですか？」という質問を頂くようにもなりました。

また、大きな改正とはいえませんが今年の6月に環境省が発行している「廃棄物処理法に基づく感染性廃棄物処理マニュアル」が改正されたこともあり、今回はこのニュースをテーマに取り上げることになります。ちなみに、私はかれこれ15年近くこのニュースの巻頭記事を担当していますが、感染性廃棄物をメインテーマとして特集するのは初めてとなります。このニュースの対象は多くが医療機関ではない排出事業者様なので、感染性廃棄物に詳しくない方を対象とした記事となります。また内容が内容だけに、前述した環境省が発行しているマニュアル、当社で発行している小冊子「東京の廃棄物処理とリサイクル」の該当するページとどうしても重複してしまいます。恐れ入りますがご了承承知いたしました。

【新型コロナウイルス感染対策継続/オンライン会議の推進】



【創業50周年を記念してHPに特設ページを設置】



ご挨拶

当社が創業50周年を迎えるにあたり、一言ご挨拶申し上げます。
 今日までご支授いただきましたお客様、お取引先様、行政機関の皆様、従業員の皆様、株主に、あらためて厚く御礼申し上げます。

昭和40年代当時、日本は大量生産・大量消費の時代でした。環境関連は法整備が行き届いておらず、日本中がゴミで溢れていました。やがて廃棄物関連の法が整備され、産業廃棄物、一般廃棄物の許認可制度ができ、事業系廃棄物の処理は民間業者に委託されるようになります。
 そんな折に、私が東京都豊島区要町の自宅から、中古トラック1台、従業員2名で廃棄物処理業を起業しました。これが株式会社要興業の始まりです。しばらくして、兄弟4名が集まり、それぞれ営業、業務、事務を分担して運営するようになります。やがて廃棄物処理とリサイクルが社会全体の重要なテーマになっていき、循環型社会を形成する方向へと国策が変化していきます。

バブル期の終わり頃より、当社は時代に合わせ、リサイクル工場に力を入れていきます。平成4年には、ビン・缶等の飲料容器

社会の出来事	
2月	廃棄物処理法 公布
月	札幌オリンピック開催
0月	第一次オイルショック
月	成田国際空港開港
月	第二次オイルショック

1980	昭和55年	3月	東京都豊島区高松へ本社移転。資本金900万円に増資。
------	-------	----	----------------------------

創業期の車両基地です

車両はこのタイプが主流でした

当時より足立区が拠点でした

ご注意事項

本説明および資料には、将来の見通しに関する記述が含まれています。これらの記述は、資料作成時点において当社が入手している情報から判断した仮定・所信に基づく見込みです。経済動向などに関わるリスクや不確実性を含んでいますので、当社がその実現をお約束する趣旨のものではございません。実際の業績は当社の見込みとは異なる可能性のあることをご承知おきください。